

紫漣会だより

15号
No.1

ご挨拶

紫漣会 会長 池田 善樹

令和7年（2025年）、新しい年が始まりました。旧年中は「紫漣会」（京都教育大学大学院連合教職実践研究科同窓会）の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。今年も宜しくお願い申し上げます。新年を迎える時、気持ちを新たにしようという思いが生まれます。紫漣会の会員の皆様は多くの方が教育関係者なので「今年は教師力を伸ばし、より良く子どもたちと心を通わせたい」とお祈りされた方も多かったのではないのでしょうか。今年巳年、巳とは蛇のこと。「脱皮」を繰り返し、成長していく生き物であることから、「再生」「成長」という前向きな印象を与える生き物だそうです。誰もが人生において何度も失敗や困難を経験しますが、それらを新たな挑戦の機会として受け入れ「脱皮」しながら、自分自身を「再生」させ、さらに一歩前に「成長」することができます。また、蛇はゆっくりとしなやかに、曲線を描きながら動きます。そのため、変化する環境に柔軟に対応する力を象徴しているとも言われます。私たちは行動する際、その瞬間にあった柔軟性のある考え方『最適解』を求められますが、これからの時代を生き抜く子どもたちは、我々よりもより多くの場面で『最適解』を求められることとなります。この様に考えると我々が巳年に託す願いは、そのまま実践していきたい教育のあるべき姿と似通っているなど気づいた次第です。

一つ情報提供させていただきます。現行の学習指導要領が告示されてから今年で8年目となります。昨年11月に文科大臣から中教審に諮問がなされ、正式に改訂がスタートしました。手始めに、有識者による論点整理、『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』として公表されています。学校現場の先生方の努力によって、『国内外の学力調査の結果によれば近年改善傾向にあり、子どもたちの学習時間は増加傾向にあるとの調査結果もある。また、「人の役に立ちたい」と考える子どもの割合は増加傾向にあるなど学習への取組や人とのつながり、地域・社会との関わりを意識し、関わっていかうとする子どもたちの姿が浮かび上がってくる。』（抜粋）とされています。その一方で、判断の根拠や理由を明確に示し自分の考えを述べる、実験結果を分析して解釈・考察し説明することについての課題、学ぶことの楽しさや意義の実感、自分の判断や行動とよりよい社会づくりの関係など社会参画意識への課題等が指摘されています。その上で、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりの実感や学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かす学力への課題が引き続き指摘されています。また、現状分析の段階ですが今後の改訂へ方向付けは少し見えていたと感じました。自分が人間教師として取り組む教育実践の方向性を検討される際の資料になると思います。 <https://www.mext.go.jp/content/1377021_1_1_11_1.pdf>

紫漣会だより

13号
No. 2

ご挨拶

京都教育大学大学院連合教職実践研究科
学校臨床力高度化系主任 竺沙 知章

新しい年となりました。いかがお過ごしでしょうか。今年は、関西では比較的穏やかなお正月となりましたが、皆さまのお住まいのところではいかがだったでしょうか。

昨年のお正月には、能登半島で大地震が起こり、また9月には豪雨による災害もあり、二重の大きな自然災害に見舞われるという前代未聞の事態に被災地の方々は直面しておられます。今年は、阪神淡路大震災から30年になります。阪神淡路大震災以降、私たちは、幾度も大震災、集中豪雨などの大きな自然災害を経験し、至る所で、その復旧、復興に取り組み続けているように思います。私たちは、そのような時代、社会に生きているということにしっかりと目を向けていかなければならないと思います。

さて、昨年は選挙の年でした。SNSの発達により選挙も随分様変わりしたと思わずにはいられませんでした。SNSの社会における影響力は、ますます大きくなり、そうした社会の中で生きていくことを考えていかなければならなくなりました。そうした状況を踏まえると、私たちは言葉を選ぶということをついそう大切にしなければならないように思います。哲学・倫理学の古田徹也東京大学准教授は、「言葉を選び取る責任」について論じています(『言葉の魂の哲学』講談社、2018年)。言葉は多義的であり、同じ言葉であっても文脈によってさまざまな意味を帯びるものです。言葉を選び取るとは、言葉がかたちになり「しっくりくる」と感じる場面のことです。それは、どうも「しっくりこない」という違和感を頼りにしながら、言葉を様々に思い浮かべそれらを比べて、「しっくりくる」という瞬間が訪れるのを待つという能動的、受動的な営みです。それはとても困難な営みで、常套句で済ませて避けてしまうことも少なくありません。能登半島の被災地の報道などにふれる時、様々なことを感じますが、それをどのような言葉で表現し、被災地の方々にどのような言葉をかけるのかが問われます。言葉を選び取る責任に向き合えない時、常套句(例えば、頑張ってください)で逃げてしまうこともよくあることです。言葉を選び取るということは、相手への思いも表されます。今年も国政選挙があります。どのような論戦が繰り広げられるか不安を覚えます。そういう時代だからこそ、放棄したり逃げたりすることなく、しっくりくる言葉を探り続けて、責任ある言動を大切にしたいと思います。



2024 年度院生・教員連絡協議会活動報告

連合教職実践研究科 学校臨床力高度化系

院生・教員連絡協議会

院生代表 四方 春輝 原田 由貴

院生・教員連絡協議会は、平成 24 年度に発足した連合教職実践研究科学校臨床力高度化系のカリキュラム改善や学習環境の向上を目的とした、院生と教員による組織です。本会は、初任期教員養成コース M1 と M2、中核教員・リーダー教員養成コースの現職院生から選出された院生委員と教員代表で構成されています。今年度は、初任期教員養成コース M1 より 3 名、M2 より 2 名、中核教員・リーダー教員養成コースより現職院生 2 名、計 7 名の院生委員と 3 名の教員で活動しています。

まず今年度は、「院生による自習室自治」の考えのもと、自習室の環境整備や改善に取り組みました。具体的には、新しい備品の納入に合わせて昨年度作成した備品リストを改訂するとともに、予備の備品の保管場所や補充方法、掃除方法についてまとめたマニュアルを新たに作成しました。また昨年度に引き続き、院生が気持ちよく自習室を利用できるように、実習ゼミごとに掃除当番を設定し、院生全員で各自習室の美化を推進しました。各自習室に設置した 2 つのマニュアルは来年度以降も引き続き活用されることを期待します。

次に、院生・教員交流集会を企画し、5 月に開催しました。

この活動は 10 年以上続けられている院生同士の交流を促進する催しです。今年度は教員と連携し、院生同士の交流だけでなく学び合いも兼ねた「院生・教員交流集会&プレ実習セミナー」として開催しました。前半の院生交流集会ではアイスブレイクとして全員協力型のミニゲームを実施し親睦を深めると同時に、グループ内で話しやすい雰囲気を作ることができました。後半は同じグループ内で「自分の中でよい思い出となっている学校に関わる経験」を院生と教員がフランクに語り合うことで、それぞれの教育観、学校観を深め合うことができました。各コースで大きな反響をいただきましたので、2 月には第 2 回院生交流集会の開催を予定しています。



第 1 回院生・教員交流集会

また秋には、初任期教員養成コース M2 の院生がこれまでの実習での学びを語り、院生、教員、そして連携協力校の教員、教育委員会の関係者で深め合う「学校臨床実習セミナー」が開催されています。昨年度は初任期の M1 がセミナーの記録を担当するために討議に加わりにくいという課題がありました。今年度は、セミナーの記録はメモ程度に留めるとともに、より院生が主体となるセミナーになるよう議論を重ね、コーディネーターを教員から現職院生に変更しました。当日は議論が活発に行われ、関係者が学び合うコミュニティづくりに繋がるセミナーとなりました。

最後に大学院が実施する授業アンケートとは別に、授業に限らず院生生活全般に関する意見要望を募るアンケートを定期的に全コースで実施しました。本アンケートには多くの院生から意見要望が寄せられたことで、ゼミや実習、行事などの諸活動、自習室をはじめとする施設設備の改善につながり、院生の学習環境が向上しました。協議会、教員の双方が協力し、より院生の実態に即した取り組みになっています。この取り組みが、来年度以降の授業やカリキュラム等の改善にも引き続き役立つことを期待します。

現在、新型コロナウイルスの感染流行拡大以前に行っていたように 4 月実施の懇親会を復活するための準備を進めています。今後も大学院のカリキュラム・学びをよりよいものにするため、協議会の活性化に努めていきたいと考えております。

「令和6年度 紫漣会総会並びに教育研究会」報告

日 時 令和6年8月11日（日・祝）13時～16時

<紫漣会総会> 13時～

- ▶ 事業報告・事業計画、役員、決算・予算、
- ▶ 院生研究支援事業対象研究発表
「学習者の学力差が「特別の教科 道徳」における協働学習に及ぼす影響」
初任期教員養成コース 稲葉 絢、上林 良、安見理沙

<教育研究会> 14時～

- ▶ 講 演 スタンフォード大学 講師 ヤング吉原麻里子氏
「From STEM into STEAM – 次世代の人材像とその育成に向けた取組み」
- ▶ グループに分かれてのディスカッション
- ▶ 全体討議



「令和6年度 紫漣会院生・修了生研究支援事業」

研究テーマ

「学び続ける教員のためのセルフスタディ研究」

本学教職大学院では、「学び続ける教員」が目指す教師像として語られています。しかし、どのように学んでいくのかについては、個人の裁量に任されているのが現状です。本研究では、教師が学び続けるための様々な方法を収集・分析し、就職後において自分の学びをデザインするための指針を示すことを目的とします。

本研究でこだわりたいことの一つは、教職大学院での学びとの接続です。就職後の学びを意識した学びを教職大学院から実践できれば、「学び続ける教員」の近づくことができるでしょう。そこで、収集・分析した学ぶための方法を院生自らが実践し、当事者の視点からその有効性を検証していきます。

本研究の成果は、教職大学院のカリキュラム開発にも寄与できると考えます。

研究申請者：初任期教員養成コース

濱田桃華（代表）、相良果歩、松本哲和、宮崎智輝

令和7年1月

紫漣会会員のみなさんへ

京都教育大学大学院
連合教職実践研究科紫漣会

メールアドレス登録のお願い

日頃から紫漣会の活動にご理解・ご支援をいただき、ありがとうございます。

これまで、本会の活動報告や紫漣会だよりその他のお知らせについて、文書の郵送により対応してきましたが、近年、宛先不明による返信が増加したことに加え、毎年修了生が増えていくことにより、郵送費用増大と発送にかかる労力に諸課題がありました。さらに昨年末から郵便料金が値上がりしております。

そのため、2年前から郵送ではなく電子メールでの連絡体制に切り替えを進めており、令和7年度末をもって電子メールのみの連絡体制に移行する予定です。

つきましては、趣旨をご理解いただき、メールアドレスの登録にご協力をお願いいたします。

【登録方法】

登録は Google フォームにて受け付けます。

登録 URL : <https://forms.gle/GF4PSKiDiYx9FJp97>

QRコード



京都連合教職大学院 (京都教育大学大学院連合教職実践研究科)

〈2024年度実践報告フォーラム〉

教職を目指す学生における 学部と教職大学院との接続

教職を目指す学生は、現在の学校現場で求められる業務・教育内容の高度化や、児童生徒の多様化に対応したきめ細かな指導など、専門職としての資質・能力の向上が必須と言えます。4年間の学部教育に加え、2年間の教職大学院での学修の重要性がこれまで以上に増えています。その中では、教科指導に加え、児童生徒指導、各種学校業務など、教員の担う仕事全般をカバーするようなカリキュラム構成が必要となります。

そこで、今回のフォーラムでは教育学部を含む様々な学部での教職課程と、教職大学院の接続に着目し、4年+2年の「教職の学び」におけるこれからの望ましいあり方について議論することを目的とします。

【お申込方法】

参加費 無料

お申込締切
2025年2月3日(月)

【申込フォーム】



二次元コードからアクセス →
<https://forms.gle/FarwTrzN2CWdf2Ay8>

※締切までにお申込がなくても当日参加可能ですが、会場の準備の都合上、事前のお申込をお願いします。

主催：京都教育大学大学院連合教職実践研究科（京都連合教職大学院）

〔基幹大学〕京都教育大学

〔連合参加大学〕京都光華女子大学／京都産業大学／京都女子大学

京都橘大学／京都ノートルダム女子大学／同志社大学

同志社女子大学／佛教大学／龍谷大学

〔連携教育委員会〕京都府教育委員会／京都市教育委員会

日時 2025年 2月11日(火・祝)
13:00~17:00(受付開始/12:30)

場所 キャンパスプラザ京都
4階 第2講義室

京都市下京区西洞院通塩小路下る
(JR京都駅ビル駐車場西側)

【会場案内】



プログラム

●開式 13:00~13:20

●2024年度実践報告 13:20~14:40

○活動報告 ○各系院生からの報告

●基調講演 14:50~15:30

「教師の専門職像の葛藤を乗り越える：学部と教職大学院の価値ある接続に向けて」

○講師

木村 優 福井大学大学院連合教職開発研究科 教授・研究科長

●シンポジウム 15:30~16:50

「教職を目指す学生における学部と教職大学院との接続」

○シンポジスト

原田 信一 連合教職実践研究科教授・6年制教員養成高度化コース主任

連合教職実践研究科教科研究開発高度化系 大学院生

連合教職実践研究科学校臨床力高度化系 大学院生

木村 優 福井大学大学院連合教職開発研究科 教授・研究科長

○ファシリテーター

榎原 禎宏 連合教職実践研究科教授・教科研究開発高度化系副主任

●閉式 16:50~17:00

お問い合わせ

京都教育大学総務・企画課教職大学院グループ

☎ 075-644-8108 ✉ renforum@kyokyo-u.ac.jp

※ご提供いただきました個人情報は、本フォーラムの運営に関して必要がある場合のみ利用します。また、ご本人の同意を得ずに、個人情報を第三者に提供することはありません。